

企画展観覧料金()内は団体料金
 一般 200円 | 小・中学生 100円
 (140円) (70円)

※団体は20名以上。
 ※以下の方は証明書を提示することで無料で観覧いただけます。
 ・市内在住の小中学生及び市内に通学する児童
 ・市内に住所のある方で、65歳以上の方、身体障害者手帳の交付を受けた方と介護者1名、療育手帳の交付を受けた方と介護者1名、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方と介護者1名、鎌倉市原子爆弾被害者の保護に関する条例に基づく保護資格認定者の交付を受けた方

けた方と介護者1名、療育手帳の交付を受けた方と介護者1名、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方と介護者1名、鎌倉市原子爆弾被害者の保護に関する条例に基づく保護資格認定者の交付を受けた方

←1995年「午後の遺言状」にてモスクワ国際映画祭 ロシア批評家審査員賞のトロフィー



映画監督 新藤兼人の仕事



今年(2012年)、百歳を迎えられる新藤兼人監督は、日本映画界を代表する現役のシナリオ作家であり、映画監督です。これまでに230本以上の映画化シナリオと50本近くの監督作品を世に送り出し、2002年に映画監督としては黒澤明監督に次ぐ二人目の文化勲章受章者となりました。昨年は、自ら「映画人生最後の監督作」とする「一枚のハガキ」が公開され、大きな反響を呼ぶとともに、その創作意欲は現在も衰えることを知りません。

戦後の松竹大船撮影所にて脚本家としての地位を確立、1951年の『愛妻物語』で監督デビュー後は、独立プロの先駆けである「近代映画協会」を立ち上げ、シナリオ作家、監督、製作者として80年近くの映画人生を歩んでこられました。「原爆」を初めて真正面から捉えた「原爆の子」、台詞のない映画詩として国際的評価を得た「裸の島」、極限状態のなかで生きる姿を描いた「鬼婆」、「老い」をテーマに社会的反響を巻き起こした「午後の遺言状」など、その作品の数々は、現在を生きる私たちに今なお、深いテーマを投げかけています。

本企画展では新藤監督の業績を貴重な資料でたどるとともに、提供した脚本作品の紹介、厳選された8本の監督作品の上映といった多面的な角度から、その「仕事」を振り返ります。



①1948年箱根清光園にて「愛妻物語」のシナリオを書いている頃②脚本家による「鬼婆」の題字③「鬼婆」撮影現場にて乙羽信子、吉村実子④「午後の遺言状」撮影現場にて乙羽信子⑤1961年モスクワ国際映画祭授賞式「裸の島」でグランプリ⑥同年のグランプリトロフィーの「一枚のハガキ」セットにて大竹しのぶ⑦「一枚のハガキ」撮影現場

資料協力：近代映画協会

映画観賞料金

「一枚のハガキ」は特別上映 / 一般1300円 | 小・中学生650円 上映開始は午前10時から午後1時から
 一般 800円 | 小・中学生400円

《記念館窓口、島森書店(鎌倉店)、たらば書房にて先売券販売》

他の全作品午後1時からの上映

映画観賞券のご提示で企画展もご覧いただけます。

愛妻物語

先売券発売 1月21日(土)
 2月7日(火)~9日(木)



96分 / 白黒 / 35mm
 公開年 1951年
 脚本・監督：新藤兼人
 撮影：竹村康和

出演：乙羽信子、宇野重吉、菅井一郎、滝沢修

脚本家として第一線で活躍していた新藤兼人の監督第一作であり、戦時中の苦難の時代に早世した妻との結婚生活を描いた半自伝的映画。妻役の乙羽信子は、当時、大映の新進スターであった。

原爆の子

先売券発売 1月21日(土)
 2月10日(金)~12日(日)



100分 / 白黒 / 35mm
 公開年 1952年
 脚本・監督：新藤兼人
 撮影：伊藤武夫

出演：乙羽信子、細川ちか子、滝沢修、宇野重吉

劇団民芸との共同による近代映画協会の第一回自主作品。戦後、「原爆」の爪痕が残る広島を舞台に、小学校の先生がかつての教え子たちを訪ねる姿が描かれる。広島出身の新藤監督による本作は世界各国で大きな反響を呼んだ。

裸の島

先売券発売 1月21日(土)
 2月21日(火)~23日(木)



95分 / 白黒 / 35mm
 公開年 1960年
 脚本・監督・美術：新藤兼人
 撮影：黒田清己

出演：殿山泰司、乙羽信子、田中伸二、堀本正紀

瀬戸内海の孤島を舞台に、そこに暮らす家族の生活と自然を力強く描く。台詞を省き、低予算、少人数で新しい製作システムを創出した画期的な作品となった。モスクワ国際映画祭グランプリ受賞作品。

鬼婆

先売券発売 1月21日(土)
 2月24日(金)~26日(日)



100分 / 白黒 / 35mm
 公開年 1964年
 脚本・監督：新藤兼人
 撮影：黒田清己

出演：乙羽信子、吉村実子、佐藤慶、殿山泰司

伝承話である鬼婆伝説等をもとに映画化。中世の混乱期を舞台に、茫然のなか強烈な陰影によって人間の生きる営みをダイナミックに描く。新藤兼人が追求してきた合宿方式の集団創造が本作で「見点」に達した。

ある映画監督の生涯

先売券発売 2月18日(土)
 3月6日(火)~8日(木)



150分 / カラー / 35mm
 公開年 1975年
 製作・監督：新藤兼人
 撮影：三宅義行

出演：田中絹代、木暮実千代、京マチ子、乙羽信子

新藤兼人が師事した溝口健二監督作品に関わる39人のインタビューで構成された作品。まさに日本映画人物史としても貴重な記録映画の傑作。キネマ旬報ベストテン第一位。

竹山ひとり旅

先売券発売 2月18日(土)
 3月9日(金)~11日(日)



123分 / カラー / 35mm
 公開年 1977年
 脚本・監督：新藤兼人
 撮影：黒田清己

出演：林隆三、乙羽信子、信賞美津子、高橋竹山

津軽三味線で有名な高橋竹山、その放浪の半生を描いた作品。写真とドラマを融合させた本作は、竹山の三味線が東北の四季に溶け込む、まさに映画詩。モスクワ国際映画祭監督賞受賞作品。

午後の遺言状

先売券発売 2月18日(土)
 3月20日(火・祝)~22日(木)



112分 / カラー / 35mm
 公開年 1995年
 原作・脚色・監督：新藤兼人
 撮影：三宅義行

出演：杉村春子、乙羽信子、朝霧鏡子、榎本榮夫

「老い」をテーマに社会現象を巻き起こした作品。藝科の山荘を舞台に、新劇の大女優と周囲の人間模様をユーモラスに描く。同志・乙羽信子の遺作となった。キネマ旬報ベストテン第一位。

一枚のハガキ

先売券発売 2月18日(土)
 3月23日(金)~25日(日)



114分 / カラー / 35mm
 公開年 2011年
 原作・脚本・監督：新藤兼人
 撮影：林雅彦

出演：豊川悦司、大竹しのぶ、六平直政、柄本明

新藤監督が自ら「映画人生最後の作品」と語る最新作。監督の実体験をもとに、「一枚のハガキ」によって伝えられた夫婦愛から戦争の本質と生への希望を描く。東京国際映画祭審査員特別賞受賞作品。
 ※特別上映につき / 一般1300円 | 小・中学生650円